



新型コロナウイルスワクチンの3回目の接種が始まります。

市民の12歳以上の接種率は89.3%で11月23日時点では県内9市トップ！！



- ◎対象者は新型コロナウイルスワクチンの2回目の接種が完了し、追加接種を希望する18歳以上の市民の方
- ◎接種券は2回目接種から8カ月経過以降に順次通知されます
- ◎国が示すワクチン接種スケジュールにより内容や接種時期が変更になる場合がありますので、最新の情報をご確認ください

議会等での役職

- ◎常任委員会・特別委員会
 - ・市民厚生委員会 委員長
- ◎小林市議会選出の各種委員等
 - ・民生委員推薦会 委員長
 - ・都市計画審議会 委員
 - ・小林市人権・同和問題啓発推進協議会委員
 - ・環境保全に関する協定に伴う立会人
- ◎議員連盟等
 - ・小林市防衛議員連盟 副会長

令和2年3月定例会 一般質問

※はなみずき 令和3年5月1日号掲載分

一般質問

魅力創造する観光戦略

県独自の緊急事態宣言



自民党きずなの会 原勝信 議員

問 緊急事態宣言期間中における本市の情報発信の対応は。

答 市公式YouTubeチャンネルメッセージで市長メッセージを動画配信するなどした。

意 危機迫った状況のとき、市長の声があることにより、安心する人もいると思う。コミュニケーションなど、いろんな手法で即座に情報発信ができるように、検討をお願いしたい。

コロナ時代の観光戦略

問 ワークーションの方針や霧島連山を生かした西諸地域への呼び込みは。

答 ワークーションの取組を含め、観光DMO法人である小林まちづくり(株)が主体となっていてやっている。これま

でも広域的な観光地域づくりを行ってきているので、しっかりと見据えていく。

問 ワークーションには帯同する子ども達がいる。学習環境の整備や学校の休暇等の考えは。

答 教科書の違いや部活動の課題がある。研究を進めたい。
問 吉都線110周年について、JR、行政、沿線自治体住民が一丸となって取組む考えは。

答 利用促進協議会を中心に官民一体となった取組を検討したい。



ふるさと納税で吉都線を盛り上げよう

詳しくはコチラから



ワークーションとは、休暇を過ごしながらかつた仕事をすると新しい労働形態のこと。帯同とは、一緒に連れてくること。



多様化する消防団活動



自民党さずなの会
はらかつぶ
原 勝信 議員

まつり・イベントの対応

- 問** こばやし名水まつりの中止による地域への影響は。
- 答** 経済効果も大きいことから、主要なまつり・イベントができないことは、地域にとって様々な影響があると認識している。
- 問** 来年度より、まつり小林実行委員会では、名水まつりを行わないと総会で決定された。若者の人材育成と併せて、夏のまつりの考えは。
- 答** 新たな手法で、名水まつり開催の意見もある。協議を重ねながら、残す工夫も検討する。
- 問** 市民スポーツ祭の開催の考えは。
- 答** こばやし大運動会は見直しの協議中である。決定次第、議会に報告し、市民へ周知する。



もよおしもの
全市民参加型の催物の継続を願う

詳しくは
コチラから



消防団の充実・強化

- 問** 消防車両を運転できない団員の数は。
- 答** 調査を行う。
- 問** 早急な処遇改善が必要だが。
- 答** 来年度の改正に向け、十分協議する。
- 問** 現在訓練中止中であるが、区への消防協力会費納入の必要性は。また組加入者だけが納めないといけないのか。
- 答** 地域の実情もあり、ご理解・ご協力をいただきたい。

12歳未満の感染症対策



自民党さずなの会
はらかつぶ
原 勝信 議員

新型コロナウイルス感染症

- 問** 学校における感染者発生時の消毒体制は、ワクチン接種できない子ども達の安全を守るためにも専門業者を入れて消毒すべきでは。
- 答** 市教育委員会で消毒作業フローを作成し実施している。必要であれば専門業者による消毒体制はとっている。
- 問** 他自治体では変異株への予防対策として不織布マスク着用の呼びかけ等を行っている。子ども達に不織布マスクの提供、支給はできないか。
- 答** 感染症対策は長期化し経済的負担も懸念されているが、入手困難な状況もなく、布製マスクでも十分と考えている。
- 問** 3回目のワクチン接種は。
- 答** 3回目の接種、交差接種についても体制が整い次第早

元氣と笑顔創出事業（こばやしの人とま
ちが輝く！元氣と笑顔創出事業費）と
は、新しい生活様式の下で、市が設定した
テーマについて、市と協働して特色ある
事業を行う市民活動団体、事業者等を募
集し、選考の上、その事業に要する費用
を補助する事業のこと。



元氣と笑顔を創出する事業を展開

詳しくは
コチラから



期に方針を示すよう国に要望
している。

- 問** 元氣と笑顔創出事業の申込数、実施団体の効果、未実施団体へのサポート体制は。
- 答** 26団体から応募があった。小規模イベント、ウェブ活用等、感染症の影響を受けにくい工夫が必要。新しい生活様式に対応した活動の見本となるよう、しっかりサポートしたい。